

令和4年度 学校評価実施報告書

学校名 (梅津中 学校)

教育目標**『自と他を大切にできる豊かな人間性と自律して社会を生き抜く力の育成』**

～相手を尊重し、つながりを大切にし、一体感と誇りを感じられる学校を創る～

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 教育目標の大目標は、ここ数年間据え置き、この3年間は副題（小目標）をそれぞれの時期に合ったものに換え、取り組んで来た。生徒に付けたい資質・能力を今年度は、「伝える力」から「汲み取る力」そして「つながり合う力」へと発展させることから、周囲の人たちを尊敬し、真につながり合い、自己有用感や自己肯定感を強くし、一体感と誇りを感じられる学校を創ることとして取組を進めてきた。一定の成果は見られてきたのであるが、後期の学校評価アンケートの保護者からの意見で『学力が低いが、いじめ等目立った問題が無く、波風立てないように過ごさせるのでは無く、生徒自身に「梅津の良い所は〇〇だ」言えるよう、自信をつけさせもらいたい。』という内容のものがあった。この意見をどう捉えるかが本校の数年後の状態を決めると言っても過言ではないと考える。一定、落ち着いた安心して通える学校を維持したとしても、それで満足をしてはいけないという考え方を示唆したものである。ここ1・2年で学校を引っ張ってきた教職員の多くが入れ替わり、新たな体制ができつつある。是非とも、良き伝統は残しながら、新たな斬新な考え方を取り入れ、保護者や生徒が誇りをもてる学校をつくっていかなければと考える。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 急速なICT化が進む中、また働き方改革の名の下に、オンライン化や紙ベースの連絡などが廃止されていく傾向にある。そのような中、対面でのつながりや紙ベースでの便りなどを重視しているのはありがたい。今後も、改革は進むと考えられるが、つながりを作り続けることは重視して欲しい。また、SNS上のトラブルやICTの進化に対してこぼれる方々への丁寧な対応をお願いしたい。学校・地域を誇りに感じさせることへの課題は、同じく感じるところである。PTAとも連動し、誇りづくりの取組を支援して行きたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
最終評価	令和5年 3月 9日	学校運営協議会

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

生徒の『伝える力』の伸長を図り、『汲み取る力』さらに『つながり合う力』へ発展させる教育活動の実践を通じて、持てる学力を最大限に引き出す。

具体的な取組

- 学習指導要領の意図を定着させ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の具現化を図る。
- 「伝える力」の具体的方策を明示し、生徒個々に伝えるツール (GIGA 端末など) のスキルアップを図り、自信をつけさせ、意見交流などを活性化する。
- 「伝える力、汲み取る力、つながり合う力」への発展を目指し、クラス・学年・全校での交流を積極的に進める。
- 教科会の時間を授業時間内に設定、また、公開授業週間・月間（11月）などを設定し、互いに授業を見て学べる機会を増やすなど、研修会の形も見直していく。
- 各教科ともに「学ぶ意義」「将来性」「身につけたい資質・能力」「魅力」などに着目して、プレゼン資料を作成し、簡潔丁寧に伝える「梅津学びオリエンテーション」を1年生に向けて実施する。
- 学習確認プログラムの結果を各教科担任が毎回しっかりと分析し、以降の指導に生かしていく。
- 「本時の目標」と「本時のふりかえり」を毎授業ごとに確認・記述する。特に「ふりかえり」を重視していく。
- 学年ごとに、定着が困難な生徒に対する個別の支援体制を協議し、実践していく。
- 日々の家庭での学習習慣と学びの定着を目的として行っている「自学自習ノート」の取組を見直し、より意欲的に進められる方策を、担任・教科担任ごとに考え、実行する。
- 家庭での学習習慣・確立の啓発を目的とした冊子「自学自習のすすめ」を配布する。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・学校評価の生徒アンケートの設問①「学校の授業は活発でわかりやすい」には、『そう思う』と『大体そう思う』の合計が90.6%と回答し、『そう思わない』生徒は3.1%。保護者アンケートの設問②「子どもは学習内容がわかり、学習に前向きに取り組んでいる」には『そう思う』と『大体そう思う』の合計が78.1%、『そう思わない』保護者は2.2%であった。昨年度同期比で、生徒的回答は、-3.8ポイント、保護者評価は+5.0ポイントとなっている。
- ・「伝える力」について、教職員での研修会では、生徒の意識が向上し、「汲み取る力」や「つながる力」も意識している感覚を得ていると、各学年での振り返りで、多くの教職員が話した。

自己評価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・「伝える力」から「汲み取り」「つながり合える力」へをテーマに、授業改善にとりくみ、意見交流などが活発に行える形を行き来してきたのであるが、なかなか成果が出ない現状にあたっている。自分と違う考え方の人と意見を交流するのは授業への参加意欲を高めていくことは間違いないところであるが、定着へと結びつかない。基礎力定着への家庭学習・課題への取組や各時間ごとの確認テストなどの取組が、若干弱くなっていることは否めない。

分析を踏まえた取組の改善

- ・昨年度の3年生が一定の成果を上げたことから、上記のような基礎学力の定着への取組が、決して軽視されてきたわけではないが、教職員の入れ替わりもあり、薄まってきたのは事実である。また、家庭の教育力も急激に上がるものでもない中で、これまで本校で培ってきた基礎学力や家

	庭の教育力の向上を図ってきたノウハウを、再確認・再重視していく必要がある。「伝える力」の土台となる部分を再構築して行く必要がある。GIGA 端末での有効なアプリのことを知り、使いこなすことが、学力向上や働き方改革にもつながると考える。
学校 関係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 学力を向上させるための取組で、「これだけは・・」というこだわり見ないなものをもう少し、はつきりさせれば。再度「伝える力」に立ち返り、基礎固めをしてみてはいかがなものでしょう。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

自分と周りの仲間の人権を大切にし、多様な個性を認め、支え高め合える集団の形成。

具体的な取組

- あらゆる場面で「人権」意識し、仲間を「尊重」する言動ができるようとする。
- 「伝える力」から「つながり合える力」への発展を目指し、自律した生徒の集団を育成する。学級の班、学級、学年、学校へと小集団から大集団へとつなげる。
- 「トークイン梅津」(感動体験作文発表会: 年間3回) を総合的な学習の時間に行い、自分の意見や考えをまとめ、文章にして仲間に伝える。さらに、生徒同士で意見を交流することにより、生徒の心を深く耕し、学校全体に一体感を持たせ、誇りある集団を育成する。
- 3年間を見通した「人権教育」の計画を進めるとともに、学年やクラスの実態、そして「コロナ禍」など、今日的課題に適した内容を適宜取り入れ、望ましい「仲間づくり」につなげる。
- 道徳教育を充実させ、共によりよく生きるために、お互いの生き方や価値観の違いを認め合い、その良さを伸ばし合い、多様性を理解する姿勢を身につけさせる。
- いじめや暴力などの問題行動に対しては、毅然とした姿勢で指導を徹底する。特にいじめは重大な人権侵害であることを認識し、未然防止・早期発見のための学校体制を継続する。また、新型感染症などに対する偏見などに配慮していく。
- 「伝える力」の基礎となる言語能力を高めるため、「朝読書」を小中一貫で行う。また、新聞記事も採り入れ、考える力の基礎も養う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・教職員の中間・年度末総括における分析結果。
- ・指導主事からの生徒評価。
- ・人権学習や道徳での生徒感想、発表の様子など。
- ・生徒及び保護者の学校評価アンケートの結果。

- 該当項目…①「学校生活は楽しく充実している」(生)
- ②「子どもは、楽しく学校へ行っている」(保)
 - ③「学校のルールや約束を守っている」(生)
 - ④「子どもは学校のルールや約束を守っている」(保)

- ・クラスマネジメントシートでいじめに関わる設問の結果。
- ・生徒指導課のいじめに関する記名式アンケート結果。
- ・補導問題件数。
- ・全国学力学習状況調査（全国調査）質問紙 結果。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

コロナ禍も3年が経過しようとする中で、新型コロナウィルスの感染がある程度収まり、対応方法が見えてきた中で、今年に入ってからの季節性インフルエンザの3年ぶりの流行による学級閉鎖などは、少なからず教職員や生徒の意識に悪影響を与えていると考えられる。

学校評価生徒アンケート設問①「学校生活は楽しく充実している」で「そう思う」と「大体そう思う」の合計が92.6%（前年同期比-3.3%）③「学校のルールや約束を守っている」で「そう思う」と「大体そう思う」の合計が95.9%（前年同期比+0.4%）、学校評価保護者アンケートでも、設問②と設問④において、「そう思う」と「大体そう思う」の合計がそれぞれ91.3%（前年同期比-1.9%）、95.6%（前年同期比+0.8%）と昨年同期とほぼ変わらぬ結果となっている。また、生徒・保護者ともに「いじめ」に関する項目については、ほぼ100%いけないという回答を得ている。

補導問題も引き続き減少傾向であるが、不登校傾向の生徒の増加やSNSの使い方に懸念される部分もある。

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	コロナ禍の状況に一喜一憂することに疲れながらも、自分のペースを掴んできて、さあ、制限が少ない状況を迎へ、今までできなかつたことをできるようになる思いに、季節性インフルエンザの流行が水を差した形となった。中学2年生の時期が最も影響を受けやすく、3学期のクラスマネジメントシートにも現れている。 秋の学校祭においても、体育館内で3学年揃っての取組はできないが、ほぼ従前に近い状態で行う事でき、特に合唱コンクールの復活は、クラスや学年のまとまりに寄与していると考える。生徒指導提要が改正され、校則の見直しなどが進む中、本校では順次、アンケートなどをとり、生徒総会で、様々な改正を行ってきた。このあたりが規範意識の向上につながっていると考える。 様々な丁寧な取組により、前期に見られたような大きな問題行動は影を潜めている。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none">2年生の上級生としてのモチベーションを上げる方法を考える。その大きな取組が4月下旬に沖縄方面に行く予定の修学旅行の事前学習である。コロナ禍に翻弄されていた修学旅行であるが、是非ともこの修学旅行は成功させたい。そして、そこで培った学年の絆を上級生としての誇りとして、すべての活動へつなげていきたい。 <p>生徒会本部の活動も改革の時期に来ている。「梅津の志」や「いいことばの日」そして「梅津愛」に続く、取組を考え、誇りを育てたい。</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <p>大きないじめ事象などが発生していないことは、教職員の方々の日頃からの丁寧な対応のおかげと感謝します。体育大会が6月開催となると聞き、生徒はどう感じるのか、生徒の意識やクラスづくりなど、こちらの都合だけにとらわれず、その辺りをしっかりと検証していってほしい。</p>

（3）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

食・健康・安全などについての関心を高め、心身の健康保持推進に対する実践力を培う。部活動や体育実技などの運動やスポーツを通じて、体力の向上・情緒の安定、そして知的な発達を促す。

具体的な取組

- 感染症への正しい知識を伝え、対策を万全にし、子どもの健康と学びを守る意識を高める。
- 身体の状態を細かく丁寧に見取りり、いじめや虐待、自殺企図などへの早急・適切な対応につなげる。
- 保健教育の充実を図り、基本的生活習慣確立に向けた指導と支援を行う。
- 年度当初の各種の健康診断結果を重視し、本人・保護者と共有し、積極的な専門医受診を促す。
- 生徒一人ひとりのアレルギーなどの体質を、全教職員で共通理解し、適切な対応・支援を行う。
- 朝の健康チェックにより、日常の健康観察の徹底と感染症などの拡大を防止する。
- 「食育だより」などを活用して食育を推進し、心身の調和のとれた成長を図る。特に、朝食の必要性を本人・家庭に周知し、喫食率の向上を目指す。
- 薬物乱用防止教室、非行防止教室、防煙教室などを開催し、飲酒・喫煙・薬物に関する指導を徹底する。
- 定期的な避難訓練や登下校の安全指導を通し、生徒の安全意識と危機管理能力の向上を図る。
- 部活動ガイドラインを遵守し、適切な運用を進める。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・全校調査や生活習慣テストにかかるアンケートを行い、分析する。
- ・教職員の中間・年度末総括における分析結果。とくに保健体育科教科会や保健安全委員会での分析。
- ・全国学力・学習状況調査の基本的生活習慣に関する分析結果。
- ・市教委「新体力テスト」と(スポーツ庁「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」)の分析結果。
- ・各種健康診断結果と、その後の受診状況。
- ・毎朝の健康観察結果。
- ・保健室への来室状況。
- ・部活動参加状況。
- ・学校評価アンケート ①部活は活発で積極的に取り組んでいる(生)
②部活動の時間や内容は適切である。(保)

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

行動制限が緩和されていく中であるが、健康観察はできるだけ丁寧に継続した。体調不良のまま登校するケースはかなり減ってきた。

同じ生徒が様々な症状で保健室を訪れることが多くなっている。不登校気味の生徒が増加する中で、保健室のカウンセリング機能も踏まえながら対応している。

部活動のガイドラインの徹底と地域移行予定の周知により、外部のクラブチームに所属する生徒が増加している。

学校評価アンケート①部活は活発で積極的に取り組んでいる(生徒)は、「そう思う」と「大体そう思う」を合わせて87.4% (前年同期比-4.4%)。②部活動の時間や内容は適切である。(保)でも、同じく合わせて83.2% (前年同期比+5.1%) となっている。

自己評価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

部活動については、この時期に再び季節性のインフルエンザが流行し、休止の期間があったことが、結果に出ていると考える。コロナ禍も3年近くなり、ウィルスの特性も解明されていく中、平常に近い状態で学校生活や部活動も行えるようになった。ただ、種目によってはクラブチームに所属する生徒が多くなり、活動の内容で若干のトラブルが発生したり、活動自体ができにくく

	<p>なったりしている。</p> <p>朝食をとる率は、高くなつており、体調不良を起こした生徒から、朝食の摂取率、あるいは内容を聞きとり、指導の参考にしていきたい。また、保健室来室時に、自傷行為や家庭の状況の状況がわかるケースが多いことを意識しておきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>心の自律と共に体の自律を図る取組を進めたい。そのために、まず正しい知識を習得する。病気のこと、ウィルスのこと、ワクチンのこと、そして部活動の目的や運営の仕方などがどのようにしていくのかなど。保護者も含めて知ることが大切である。</p> <p>そして、実行する。自分で判断して、正しいこと、健康になることを実行する。さらに振り返って深化させる。</p> <p>以上のことと教職員・生徒会など全体で考えて行く。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>来年度の体育館改修に関して、避難所の機能を含めた施設面での要望を伝える機会をつくってほしい。また、改修期間中の体育館の代替施設について、地域の企業などへ依頼を試みることとする。情報モラルの部分を注視しながら、生徒たちの心身の状態の把握に努めてほしい。</p>

(4) 学校独自の取組

	<p>重点目標</p> <p>小中一貫した9年間の教育活動により、目指すこども像「互いのよさや可能性を認め合い、思いや考えを伝え合える児童・生徒」「自分の課題を見いだし、自分を生かせる未来を語れる児童生徒」の実現に取り組み、自と他を大切にできる豊かな人間性と、自律して社会を生き抜く力を育成する。「梅津愛」に溢れ、地域・学校に誇りを持てる生徒を育成する。</p>
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小中の管理職と一貫教育主任の連携を深め、研修会や研究授業の目的をしっかりと確認して進める。 ② 小中合同研修会と小中合同研究授業を実施し、児童・生徒の実態把握と取組の一貫化を進める。 ③ 小中各校の校内研修会は、相互に案内し、積極的に参加する。 ④ 児童会・生徒会の交流（中学生による小学校校門での「いいことばの日」あいさつ）を継続する。 ⑤ 『梅津の志』『梅津愛』を小学校にも広げ、「いいことばの日」を地域全域での実施を目指す。 ⑥ 小学校6年生を対象にした、授業体験・部活見学を実施する。 ⑦ 授業規律・話し方・聞き方を成長に合わせてレベルを変えながらも、小中一貫性を持たせたものし て提示する。 ⑧ 上記いずれの交流においても、オンラインの形を積極的に採り入れ、質・量の改善を図る。

	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレジョイントプログラム、ジョイントプログラム、学習確認プログラムの結果と経年変化。 ・生徒及び保護者の学校評価アンケートの結果。 <p>該当項目…①「安心して登校できている」(生)</p> <p>②「安心して子どもを学校へ行かせている」(保)</p> <p>③「おはようなどのあいさつはできている」(生)</p>
--	--

④「子どもはおはようなどのあいさつができる」(保)

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

・学習確認プログラムや全国学力調査の結果は、(1) を参照。

・生徒及び保護者の第2回(後期)学校評価アンケートの結果。

(「そう思う」と「大体そう思う」の合計ポイント)

該当項目…①「安心して登校できている」(生) 95.0 ポイント(昨年同期比-2.8)

②「安心して子どもを学校へ行かせている」(保) 92.7 ポイント(昨年同期比+0.9)

③「おはようなどのあいさつはできている」(生) 91.5 ポイン(昨年同期比-1.7)

④「子どもはおはようなどのあいさつができる」(保) 88.9 ポイント(昨年同期比+5.8)

⑤「梅津中学校には特色がある」(生) 86.0 ポイント(昨年同期比-2.4)

⑥「梅津中学校に特色を感じる」(保) 50.4 ポイント(昨年同期比-5.9)

⑦「梅津中学校の生徒であることに誇りを感じる」(生)

88.1 ポイント(昨年同期比-3.0)

⑧「子どもが梅津中学校の生徒であることを誇れる」(保)

86.9 ポイント(昨年同期比-5.2)

自己評価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

「近年、学力が低いと名が知れている学区の為、子供達自身が「梅津はアホや。」と発信してしまっている程である。先生方には、「そうではない。このように教育していく、このような結果が出ていると保護者にも明示してほしい。特色は〇〇であると言えるものを全面にしてほしい。学力が低いが、いじめ等目立った問題が無く、波風立てないように過ごさせるのでは無く、生徒自身に「梅津の良い所は〇〇だ」言えるよう、自信をつけさせもらいたい。過去の梅津は掃除が行き届いており、二足制と間違われる程だったと言わっていた時期もありました。何かひとつでも生徒自身が梅津中学を誇れる何かを謳えるようにしていければと思う。」

上記は学校評価の後期保護者アンケートで投稿された文面である。1年生の保護者のものである。ここには、保護者が抱かれている不安感と期待感が表されてると考える。下線部のところで満足するのではなく、地域・学校に誇れる学校づくり、生徒づくりをしてほしいという思い。重く受け止め、今後に活かしていく必要がある。各評価の数字もこの文面と呼応した結果が得られていると考えられる。学年ごとの分析はできていないが、生徒・保護者ともに下級生ほどこの意識が大きいと考えられる。

アンケートをとった時期に、中学生に危害を加えるFAXが数回送られており、不安感をあおられるかと思ったが、本校には校門にロックがかかるシステムがあり、大きくは影響しなかったと考えられる。

分析を踏まえた取組の改善

今年度の学校教育目標でも、副題に「誇り」という文字を掲げ、集会やHP、学校便りなどで趣旨に沿った内容を伝えてきたつもりであるが、ご指摘があるように、十分な取組ではないことが確認された。人権学習など「人権尊重」基板として、人間形成、集団形成をめざし、生徒会では「梅津愛」そして、生徒の方には「リスペクト・アザーズ」と繰り返し訴えたが効果が上がっていない現状に対し、教職員・生徒・保護者が一体となって、方策を真剣に考える必要がある。まず、この三者が同じ土俵で学校の現状を話合うシステムを構築することが考えられる。拡大学

	校運営協議会のようなものを開いて行けばと考える。「伝える・汲み取る・つながり合う」は、ここでも生きてくると考える。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 学校評価で注目された文面については、地域としても強く支援を考えて行きたい。PTA共連携し、コロナ禍で途絶えた地域行事の精選したなかでの復活などを含めて考えて行きたい。上級生になるほど、自律の心が芽生えていくことは、社会にでても通用することと考えます。

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標	教職員働き方への意識を向上させ、学校教育の質を保った上で、業務の精選・超過勤務の削減を図る。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ① 状況に応じて、完全下校の繰り上げ等を行い、さらに超過勤務を減らす。 ② 部活ガイドラインを厳守し、教職員の健康の維持に努める。 ③ 部活動休止日を増やす。(式の日・定期テスト最終日・全体が集まる会議日等) ④ 教育の質の維持に影響のない業務を削る。 ⑤ 校務分掌上の係の業務を、管理職も含めてワークシェアを積極的に進める。 ⑥ 外部での研修や会議において、オンラインを積極的に採り入れる。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ① 超過勤務時間 ② 年休取得状況 ③ ストレスチェックの結果 ④ 教職員へのヒアリング

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	・超勤平均時間(カッコ内は令和3年度) 4月 46' 48" (48' 28") 5月 43' 12" (37' 29") 6月 46' 48" (51' 09") 7月 37' 03" (39' 06") 8月 15' 58" (14' 31") 9月 51' 30" (35' 33") 10月 46' 30" (46' 04") 11月 49' 43" (47' 54") 12月 36' 00" (41' 44") 1月 35' 25" (37' 37") 2月 34' 13" (31' 58") <ul style="list-style-type: none"> ・年休取得数は、昨年度より増加している。取得5日以下の教職員はいない。 ・ストレスチェックでは、教育委員会・中学校グループよりも課題が多かった。 ・職員検診では要精検者がおり、受診を勧めていく。
自己評価	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 4月～2月の超勤平均時間で、11ヶ月中、昨年度より増加したのが6ヶ月であった。増減の数はほぼ半数で、増減の割合も大きくなく、月ごとの行事などを含めて、一定の効果がでている。 平均40時間を越えている月は、それぞれ大きな行事があったり、部活動の大会があったりする。 部活動の長期間にわたる休止などがない中、一定の水準に落ち着いてきていると考えられる。 GIGA端末を持ち帰るなど、家庭での仕事量も気になるところである。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>感染防止の制限が緩和される中で、従前に近い勤務状態が考えられる。それぞれさらに業務内容を精選していくはたらきかけを行う。時間をかけて丁寧に行うべきところをしっかりと見極める力を主任クラスの教職員についていく。部活動指導員や校務支援員などをできるだけ増員し、負担軽減を図りたい。部活動時間の勤務時間内での制限をいち早く導入し、浸透させる。</p> <p>GIGAスクール構想で、採点ソフトやスクリレなどを活用していく。様々なアプリも有効な物をしっかりと精選する。退校時間を想定し、業務の逆算を考えて行く。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>急速なICT化が逆に教職員のストレスや時間超過につながっていないか心配である。無理のないように有効な形で、あせらず採り入れていって欲しい。部活動などの地域移行など、協力できるところはしていきたい。</p>

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

	<p>重点目標</p> <p>日々の教育活動による自己指導力の育成と見守りや教員間の情報共有による早期発見の徹底</p>
	<p>具体的な取組</p> <p>「学校いじめの防止等基本方針」に同じ</p>
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。 ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介している。 ③ いじめに係る既存の「学校評価：児童生徒アンケート項目」を活用し、経年変化を比較し教職員が共有し、適切な対応を迅速に行う。 <p>学校評価生徒アンケート : 学校へは安心して登校できている。 「いじめ」はいけないと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ④ 児童生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。 ⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>③ ④のアンケート等で得た情報を学年会、補導部会、生徒指導委員会、いじめ対策委員会で共有し、指導方針を検討したうえで組織的な対応をすすめることができた。学校評価については、管理職を通じて職員会議にて全教職員に共有し、1年間の考察を述べた。</p> <p>学校評価生徒アンケート・・・『そう思う』と『大体そう思う』の合計ポイント 学校へは安心して登校できている。: 95.0 % 先生たちの指導は適切である。: 95.0 % 仲の良い友達がいる。: 97.8 % 「いじめ」はいけないと思う。: 99.6 %</p> <p>学校評価保護者アンケート・・・『そう思う』と『大体そう思う』の合計ポイント</p>
--	---

安心して子どもを学校に行かせている。: 92. 7 %
子どもに応じた適切な指導が行われている。: 77. 4 %
子どもには、仲の良い友達がいる。: 97. 1 %
子どもは「いじめ」がいけないことをわかっている。: 99. 3 %

いじめアンケート・・・『はい』の人数

友達からされたことで、いやな思いをしたことがありますか？

1年生：8人 2年生：10人 3年生：6人

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

生徒アンケート結果は中間報告より少し数値も低くなっているが、保護者アンケートでは少し数値高くなっている。いじめアンケートの認知件数は減っており、いじめの重大事案も発生していないが、安心した学校生活の中で自己指導能力の育成を継続していく必要がある。学校全体での規範意識や何気ない言葉などに気をかけ、全教職員が日頃から寄り添いながら関わり、相談できる人間関係を構築することで、いじめの早期発見につなげながら未然防止を徹底していく。来年度は学年間だけでなく、部活動顧問や他学年とも情報共有し、小さな変化も見逃さない環境を作る必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

- ・今後も重大事案の発生を未然に防ぐため、普段の学校生活や授業を通して自己指導能力の育成、集団としての規範意識の向上を目指していく。
- ・子どもを守るという強い意志をもち、教職員だけでなく保護者との連携を強化し、生徒の小さな変化を見逃さない姿勢を示していく。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

引き続き丁寧な対応をしていただき、安心・安全に通える学校を目指して欲しい。不登校の生徒と学習に支援が必要な生徒が運動して増えてきているところに注目して、生徒への指導に当たって欲しい。